

ダイズのカドミウム濃度低減技術体系 ー苦土石灰のうね内部分用と低吸収性品種の組合せー

技術の特徴

- ダイズの生産段階におけるカドミウムリスク低減効果の高い技術体系の構築に向け、苦土石灰のうね内部分施用(図1)と低吸収性品種を組み合わせると、低吸収性品種の子実カドミウム濃度は主力品種と比べて、3～4割低減する(図2)。
- ダイズの子実カドミウム濃度低減のための技術体系として活用できる。

研究の内容



図1. うね内部分施用と全面施用の比較

うね内部分施用は、うね中央部の播種位置付近の幅20cm・深さ20cmの範囲に帯状に苦土石灰と化成肥料を施用した。全面施用は、苦土石灰と化成肥料を全面散布し、深さ15cmまで混和した。

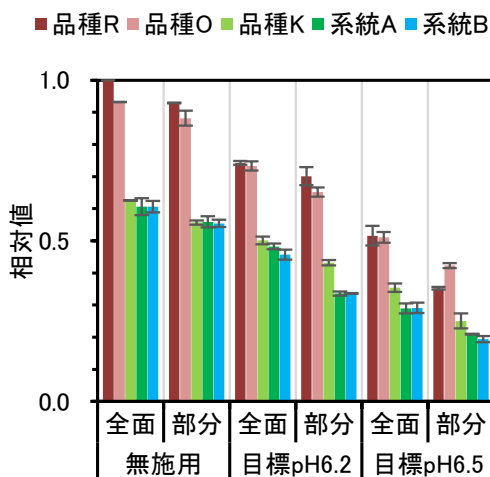


図2. 目標pHと施用法による各品種・系統の子実カドミウム濃度低減効果

縦軸は、品種Rの苦土石灰無施用・全面施用を1.0とする。品種Rと品種Oは、東北の主力品種。品種K、系統Aおよび系統Bは、カドミウム低吸収性。

今後の展開

- ダイズの生産段階におけるカドミウム濃度低減技術体系として、普及を図る。